



OITA UNIVERSITY

FD



2026年1月

2026年度
教育の質保証に向けた
シラバス作成のポイント

大分大学IRセンター・教育マネジメント機構教学マネジメント室

鈴木雄清

シラバスの役割

客に承諾なく変更することは債務不履行。ただし、やむを得ない事情や合理的な理由で、変更が生じる場合も。



予約制コース料理のメニュー

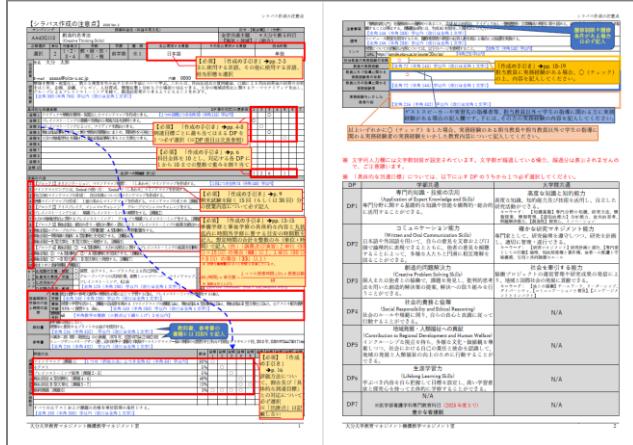
1. 授業選択ガイド
2. 契約書
3. 学習効果を高める文書
4. 教員と学生の人間関係づくりのツール
5. 授業の雰囲気を伝える文書
6. 授業全体をデザインする文書
7. カリキュラム全体に一貫性をもたせる資料
8. 教員の教育業績記録のエビデンス

小林直人(2019)「シラバスの書き方」2019年6月29日-3日開催
第32回愛媛大学授業デザインワークショップ配付資料

シラバス作成の参考資料等 (教養教育科目の例)

シラバス作成の手引き : <https://otl.iem.oita-u.ac.jp/syllabus/>

1. シラバス作成の注意点



→2ページ

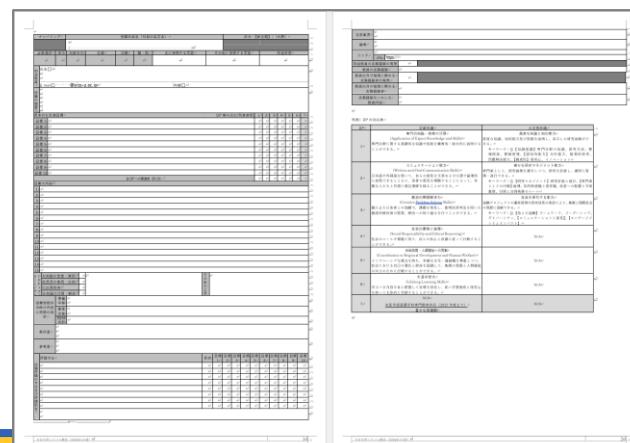
2. シラバス作成の手引き (本体)



→27ページ

必要に応じて随時更新を行っています。本URLにて最新の情報をご確認ください。

3. シラバス様式 [Word文書形式]



→2ページ

シラバスチェック体制

学部等	チェック体制
教育学部	①教務委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③小講座単位で相互チェックを行う ④学務係で集約する（チェックは行わない）
教育学研究科	①授業担当者によるチェック担当者（当該授業科目担当者以外）へのシラバス送付 ②チェック担当者によるシラバスチェック
経済学部	教務委員が、「具体的な到達目標とDP項目との対応」などの記載内容を中心に、分担してチェックする。修正については、教務委員から直接教員に指示、もしくは学務係を通して伝えて反映させる。
経済学研究科	大学院委員が、「具体的な到達目標とDP項目との対応」などの記載内容を中心に分担してチェックする。修正については委員から直接教員に指示もしくは学務係を通して伝えて、反映させる。
医学部	(医学科) 教務委員会でピア・レビューを行う。 (看護学科・先進医療科学科) 学科教員でピア・レビューを行う。
医学系研究科	修士は看護学専攻部会の教育担当、博士は小委員会のメンバーでチェックし、チェックでの指摘事項を各科目担当教員に知らせる。
理工学部	①教務委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③プログラム単位で相互チェックを行う ④学務係で集約する（チェックは行わない） ※理工学部から拠出した教養科目も含む。
理工学研究科	(博士前期課程) 理工学部と同様
	(博士後期課程) ①研究指導委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③研究指導委員会でチェックを行う ④学務係で集約する（チェックは行わない）
福祉健康科学部	①シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ②教務・実習委員はチェックシートでチェックを行う
福祉健康科学研究科	①シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ②学務委員はチェックシートでチェックを行う
教養教育	①科目担当教員が「シラバスチェックリスト」（Googleフォーム）により、セルフチェックをする。 ②科目担当教員から提出のあった「シラバスチェックリスト」を基盤教育センター長が確認する。 ※各学部開講科目は、各学部でチェックを行う。

主なポイント

1. 担当形態
2. 具体的な到達目標・DP等の対応
3. アクティブ・ラーニング／その他の工夫
4. 授業時間外学修の内容と時間の目安
5. 教科書／参考書
6. 成績評価の方法及び評価割合
7. 注意事項

1. 担当形態

1つ以上
を選択

単独	1人の教員が全回を担当する
複数 (共同)	1回の授業を2人以上の教員が一緒に担当する
オムニバス	各回を異なる教員が担当する
クラス分け	学生を複数のクラスに分けている

担当形態の組み合わせ例

担当形態				例
単独	複数 (共同)	オムニバス	クラス分け	(クラスや教員の数、授業回はあくまで例)
●			●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1をA教員、クラス2をB教員が担当する
●			●	同一シラバス科目で、対象者を3つにクラス分けし、クラス1はA教員、クラス2とクラス3はB教員が担当する
●			●	同一シラバス科目で、対象者を2つにクラス分けし、A教員がクラス1とクラス2を異なる時間に担当する
				同一名称の科目であるが、3つにクラス分けし、担当教員ごとにシラバスが別である。
●				クラス1はA教員が担当する。
●				クラス2とクラス3はB教員が担当するが、同一シラバスである。
		●	●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1の前半とクラス2の後半をA教員、クラス2の前半とクラス1の後半をB教員が担当する
		●	●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1とクラス2の担当教員が途中で入れ替わる
		●	●	同一シラバス科目で、1-2回は单一クラスでA教員、3-4回は单一クラスでB教員が担当し、5回以降は対象者をクラス分けし、クラス1をA教員、クラス2をB教員が担当する
●			●	同一シラバス科目で、対象者をクラス分けし、クラス1をA教員とB教員が、クラス2をC教員とD教員が共同で担当する
	●	●	●	同一シラバス科目で、1回は单一クラスでA教員、2回は单一クラスでB教員、3回は单一クラスでC教員、4回は单一クラスでD教員が担当し、5回以降は対象者をクラス分けし、クラス1をA教員とB教員、クラス2をC教員とD教員が共同で担当する

2. 具体的な到達目標・DP等の対応

シラバス作成の手引き
→ p. 4-8

具体的な到達目標の書き方

1. 主語は**学習者**である
2. 学習者や学習者の頭のなかで起こって
いて外化されていないことではなく、
第3者が観察可能な行為を示す動詞を使
う
3. 本当にその成果を身につけたかどうか
を測定するために、**どのような課題や
活動を課すべきか**がはっきりしている

推奨されない 観察**困難**な動詞の例

- わかる
- 理解する
- 知る
- 覚える
- 記憶する
- 考える
- 感じる
- 学ぶ
- 養う
- 培う
- 身につける

可視化されない、
アウトカムではない、
内的な変化



大分大学学士課程のディプロマ・ポリシー (DP)

シラバス作成の手引き
→ p. 5

1. 専門的知識・技能の活用 (Application of Expert Knowledge and Skills)

- 専門分野に関する基礎的な知識や技能を横断的・総合的に活用することができる。

2. コミュニケーション能力 (Written and Oral Communication Skills)

- 日本語や外国語を用いて、自らの意見を文章および口頭で論理的に表現できるとともに、他者の意見を傾聴することによって、多様な人たちと円滑に相互理解を図ることができる。

3. 創造的問題解決力 (Creative Problem Solving Skills)

- 個人または他者との協働で、課題を発見し、批判的思考法を用いた創造的解決策の提案、解決への取り組みを行うことができる。

4. 社会的責務と倫理 (Social Responsibility and Ethical Reasoning)

- 社会のルールや規範に則り、自らの良心と良識に従って行動することができる。

5. 地域発展・人類福祉への貢献 (Contribution to Regional Development and Human Welfare)

- インクルーシブな視点を持ち、多様な文化・価値観を尊重しつつ、社会における自己の責任と使命を認識して、地域の発展と人類福祉の向上のために行動することができる。

6. 生涯学習力 (Lifelong Learning Skills)

- 学ぶべき内容を自ら把握して目標を設定し、高い学習意欲と探究心を持って主体的に学修することができる。



大分大学大学院のディプロマ・ポリシー

シラバス作成の手引き
→ p. 5

1. 高度な知識と知的能力

- 高度な知識、知的能力及び技術を活用し、自立した研究活動ができる。

【知識基盤】専門分野の知識、研究方法、情報探索、情報管理

【認知的能力】分析能力、批判的思考、問題解決能力

【創造性】探究心、イノベーション

2. 確かな研究マネジメント能力

- 専門家として、研究倫理を遵守しつつ、研究を計画し、適切に管理・遂行できる。

【研究マネジメント】研究計画と遂行

【専門家としての行動】倫理、知的財産権と著作権、

他者への配慮と守秘義務、引用と共同執筆のルール

3. 社会を牽引する能力

- 協働プロジェクトの運営管理や研究成果の発信により、地域と国際社会の発展に貢献できる。

【他との協働】チームワーク、リーダーシップ、ダイバーシティ

【コミュニケーションと普及】

【エンゲージメントとインパクト】



到達目標とDPの対応

シラバス作成の手引き
→ p. 6

		3. 創造的問題解決力	4. 社会的責務と倫理	5. 地域発展・人類福祉への貢献	6. 生涯学習力					
		2. コミュニケーション能力								
		1. 専門的知識・技能の活用								
具体的な到達目標		DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	アイディアや情報を整理・視覚化したマインドマップを作成できる。			○						
目標2	ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を踏まえ、多様なアイディアを創出できる。		○	○						
目標3	親和図法図解化を用いて断片情報を階層的にまとめ、関係性を可視化できる。		○							
目標4	大分の地域活性化を題材した親和図法図解化をもとに文章化できる。		○		○					
目標5										
...										
目標10										
各DPへの関連度 (計10)						3	6	1		

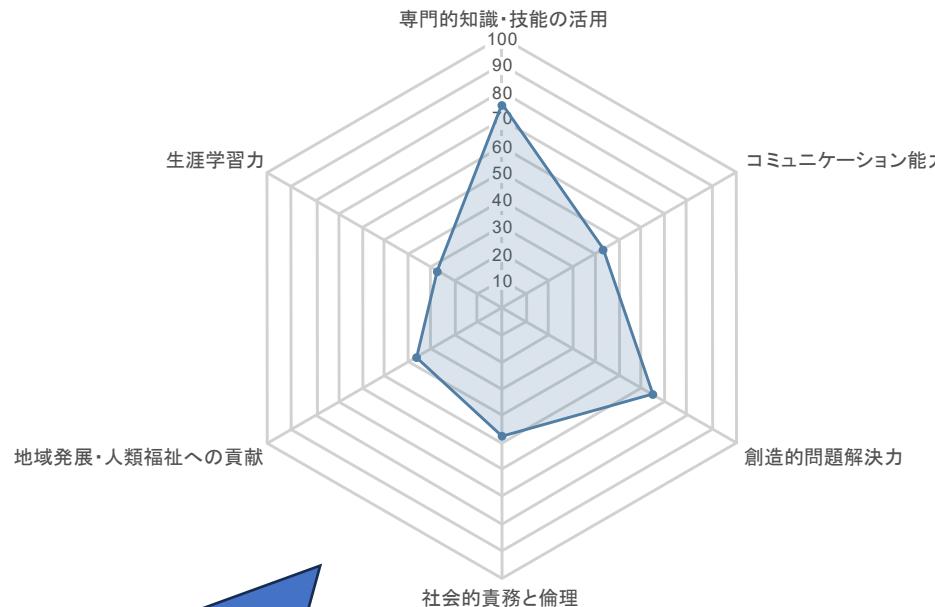
本質的に関連が高い
DPに絞る

対応のあるDPのみに
全体を10で割り当てる

学修ポートフォリオでの活用 (ディプロマ・サプリメント)

シラバス作成の手引き
→ p. 6

成績評価



DP達成度のレーダーチャートに、科目の関連度の数値と、GPおよび単位数から算出した値の累積が反映

1年前期(2025)

1年後期(2025)

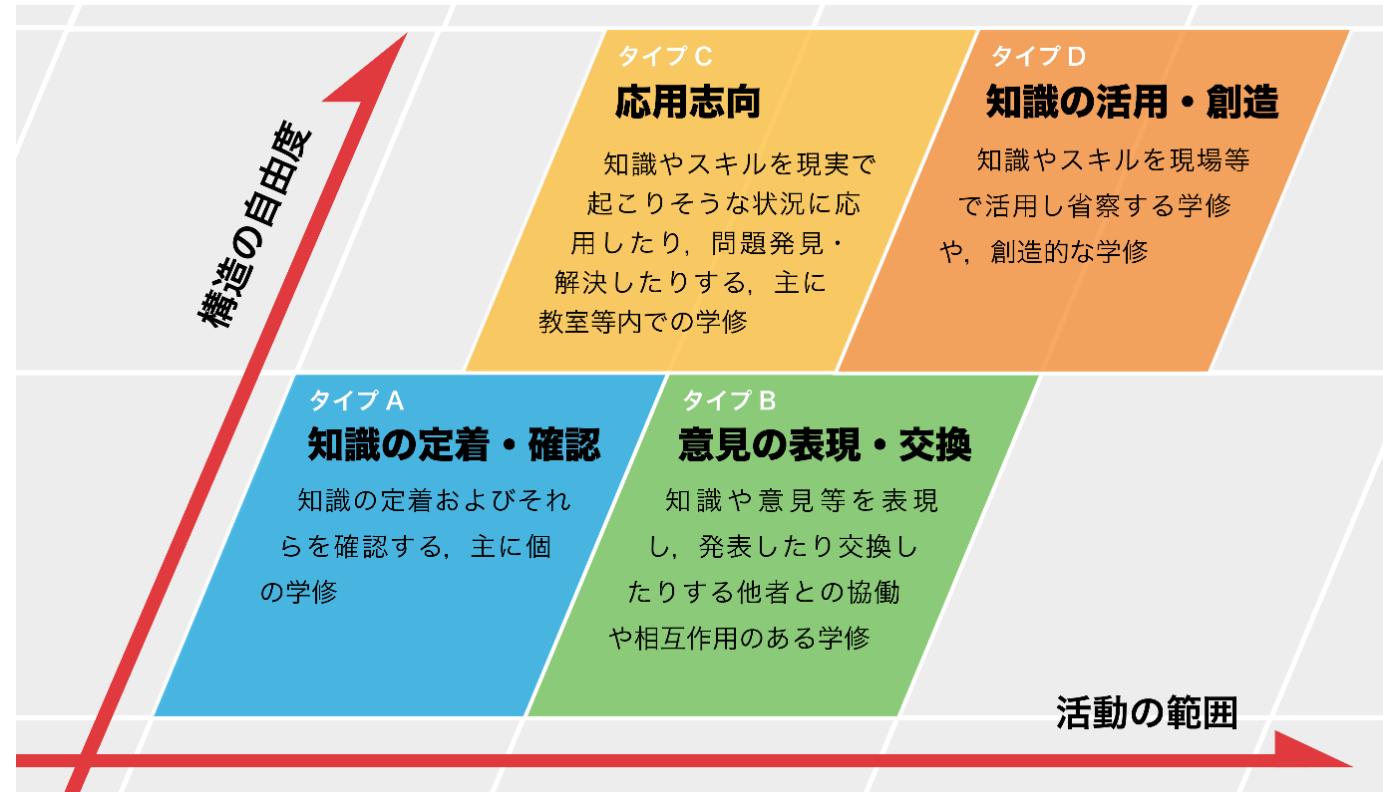
学期の振り返り（学期末）

学期の目標を踏まえつつ、学期を振り返って、目標の達成度の自己評価をして
→『あまり達成できなかった』▼『途上：一部獲得している』→『ある程度達成

ディプロマポリシー【医学部看護学科】	主要な科目
専門的知識・技能の活用 /Application of Expert Knowledge and Skills	化学、 解剖学、 中国語I（看護学科対象）、 保育学基礎論、 データサイエンス入門、 基礎看護学実習I、 生物学、 生理学の基礎、 コンピュータ科学入門
コミュニケーション能力 /Written and Oral Communication Skills	日本語や外国語を用いて、自らの意見を文章および口頭で論理的に表現できるとともに、他者の意見を理解することに慣れて、様々な人たちと一緒に協力して問題解決する能力

関連度4以上の科目が、学生の目標設定や振り返りの際に「主要な科目」として表示

3. アクティブ・ラーニング／その他の工夫



タイプ	タイプの説明	方策の例	具体例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個の学修	レスポンスアライナー 小テスト、演習、実技	クリッカー 中間テスト、口頭試問、穴埋め資料、質疑応答、作問	
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング	ミニツーペーパー 時間外学修	表現志向のものは(B)
		体験、実験、観察	予習（反転学修を含む）、復習、宿題	他者との協働や相互作用のあるものは(B)
		調査	手順通りの実験・実習、体験活動、見学、傍聴、実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見等を表現し、発表したり交換したりする他者との協働や相互作用のある学修	発問 発表	指名発問、リレー発問 プレゼンテーション、パネルディスカッション、カンファレンス	
		話し合い	ディスカッション（ガイド付き・フリー）、ブレイインストーミング、ラウンドロビン、バズグループ、シンクペアシェア、ワールドカフェ、ディベート、マイクロディベート、アイディアソン	
		教え合い・学び合い	ジグソー、知識構成型ジグソー法、LTD（Learning Through Discussion）、相互教授（ピアインストラクション）、ラーニングセル、リーディングサークル、カタリ場	問題解決が含まれる場合は(C)も参照
		図解	コンセプトマップ、KJ法A型図解化、マイントマップ	
		文章作成	学びの省察（ポートフォリオを含む）、表現志向のレポート・ライティング、読書感想文、見図作文、共同的執筆	知識の定着・確認を図るもののは(A)
		相互評価（ピアレビュー）	ピアレスポンス	
		問題基盤学修【PBL】 （Problem-Based）	チュートリアル、四面会議システム	
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりそうな状況に応用したり、問題発見・解決したりする、主に教室等内での学修	シミュレーション、ゲーム	危険予知訓練（KYT）、バーンガ	シナリオベース
		ロールプレイ、演劇	模擬授業	
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究、事例設定型教授（Case-Based）	学修者主体のもの
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場等で活用し省察する学修や、創造的な学修	チーム基盤型学修【TBL】 （Team-Based）		
		プロジェクト学修【PBL】 （Project-Based）	ハッカソン（アイディアソンとセットで）	
		実習	教育実習、臨地実習、海外実習、現地実習	
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスラーニング	評価を伴うボランティア活動	省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査（インタビュー）、アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(A)
		観測		
		創成学修	ものづくり実習、動画作成	
		芸術創作		
		設計、デザイン、意匠研究、論文作成	卒業論文、修士論文	

4. 授業時間外学修の内容と時間の目安

シラバス作成の手引き
→ p. 13-15

授業時間外学修時間※ =

$$45 \text{ (時間)} \times \text{単位数} - \frac{1 \text{コマの授業時間 (分)} \times \text{授業回数}}{60}$$

※ 端数を切り上げる

講義及び演習

1コマ90分

15回
2単位

	準備学修	授業時間	事後学修
90時間 [2単位]		22.5時間 =90分 (1.5時間) × 15回	

	準備学修	授業時間	事後学修
15回全体	33.75時間	22.5時間	33.75時間
1回あたり	2.25時間	1.5時間	2.25時間

具体的な学習内容と想定時間

授業時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(5h)。ブレインストーミングの準備をする(4h)。
	事後学修	授業での学修を活かし、課題の完成度を高める（マインドマップの課題(14h)、親和図法A型図解化(25h)、親和図法B型文章化(12h)）。小テストや配布資料を用いて復習する(8h)。
	想定時間合計	68

5. 教科書／参考書

- ・使用しない場合は、「教科書は指定しない」、「参考書は指定しない」と記入してください。
- ・※書籍を正確に特定できるよう、ISBN (International Standard Book Number) を記入してください。2007年以降に刊行された書籍は13桁です（2006年以前は10桁）。

教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリント小冊子を使用する。
参考書	川喜田二郎『続・発想法』中公新書、1970年、ISBN9784121002105 トニーブザン・バリーブザン（著）、近田美季子（翻訳）『新版ザ・マインドマップ—脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166

6. 成績評価の方法及び評価割合

シラバス作成の手引き → p. 16

1. マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイディアを創出できる。
 2. ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を踏まえ、多様なアイディアを創出できる。
 3. 親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイディアを創出できる。
 4. 大分の地域活性化を題材に、アイディアを創出できる。

7. 注意事項

- ・科目の履修制限、履修に際しての前提条件（前提科目）、重要なルール等の注意事項（生成AIの利用に関するルールを含む）

注意事項

「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。生成AIの利用は、アイディア出し・情報整理・文章構成の検討に限り認める。AIが生成した文章をそのまま転載することは禁止する。課題提出時には、生成AIを使用した箇所および入力したプロンプトの概要を必ず明記すること。

ご不明な点は

- ・各学部の学務係、医学部学務課、教育支援課にお問合せください。